

特集：鶏卵輸出について

昨年 1 月に当協会が中心となって、鶏卵輸出準備分科会が結成されました。その後の 1 年間で鶏卵輸出を巡って大きな動きが起こっています。特に、内閣が主導する TPP 交渉合意を受けた関連政策大綱の中でも、「農林水産物・食品の輸出額 1 兆円目標の前倒し達成」が掲げられ、強い追い風となっています。今月号では鶏卵輸出についてのこの間の動きや、現状、将来への見通しなどについて特集致しました。

① 鶏卵輸出に関連する平成 27 年の動き

平成 27 年

- 1 月
 - ・鶏卵輸出準備分科会（以下、分科会）立ち上げ。日本畜産物輸出促進協議会（以下、協議会）の分科会として養豚、食鳥、牛乳・乳製品の 3 分科会も同時期に発足。
 - ・平成 26 年度補正予算で畜産物輸出特別支援事業予算 3 億円決定。3 月末の延伸処理で実質的に 27 年度予算となる。
 - ・分科会説明会を開催し、広く会員募集を行う。
 - ・日本より香港向け鶏卵の一部が鳥インフルエンザ発生により焼却処分されるという事件が発生。
- 2 月
 - ・分科会として香港衛生当局に直接連絡を取り、AI による焼却処分につき事実関係につき協議。
- 3 月
 - ・分科会で統一ロゴマーク検討委員会を開催し、ロゴマークとキャッチコピーを決定。事業としての最初の取組となる。
- 6 月
 - ・第 1 回通常総会を開催。この時点での会員数 32 法人（7 団体、25 企業）
- 8 月
 - ・分科会会員 7 名による輸出先国検討委員会が香港にて鶏卵流通事情を調査。香港衛生当局訪問した際に、12 月に同国の鶏卵に関する法令が変更されるとの情報を得る。
- 10 月
 - ・TPP 交渉が最終合意され、関係国よりの鶏卵輸入関税が時間をかけて撤廃されることとなる。
 - ・長い間政府間交渉が続いていた台湾に対する鶏卵輸出が出来る様になる。

- ・ロゴマークを輸出用段ボール箱に印刷したり、ロゴマーク入りインパックラベルを挿入する活動が開始される。
- 1 1 月
- ・ロゴマークをテーマにした英文・中文ポスターを作成。
 - ・ロゴマークをメインにした中文プレートを香港の飲食店向けに作成。
 - ・分科会会員 4 名による試行的輸出調査委員会が香港にてロゴマークの普及状況や今後の取組についての業者意見を聴取。
- 1 2 月
- ・香港で鶏卵、卵加工品に対する新たな法令が施行となる。これに伴い香港向けの卵加工品工場も G P センター同様、登録制となる。
 - ・分科会会員 6 社 7 名が協議会が主体となった香港フードフェスティバル展示に参加。

平成 28 年

- 1 月
- ・分科会会員 2 名がシンガポールで開催された「日本食フェア」に参加。同地で「日本のたまご」300 個を温泉卵にして、温玉スープ試食を行う。

現在時点での分科会参加者数は 39 法人（7 団体、32 企業）と増加しており、業界よりの注目が高いと言える状況となっています。

② 鶏卵輸出準備分科会の取組

分科会規則 2 条（事業）で具体的な事業として下記が行われることとなっています。

- (1) 国内外での日本産鶏卵の PR
- (2) 「日本のたまご」統一マークの管理普及
- (3) 展示会・セミナーの実施
- (4) 海外マーケティング調査
- (5) 国内検討会の開催
- (6) 鶏卵輸出事業者による輸出活動等の支援
- (7) その他輸出促進のため必要な事業



これらの事業に対して、国からの予算をもとに取組みを行っています。

既に分科会として、下記のように人員を海外に派遣して、今後の輸出拡大に対して準備を着々と行っています。12月の香港フードフェスティバルでは試食として温泉卵スープを一般市民に提供し好評であり、今後の海外での試食についてのごたえを感じております。

8月	香港	7名	輸出先国調査
9月	ミラノ	1名	ミラノ万博
11月	香港	4名	試行的輸出調査
12月	香港	6名	香港フードフェスティバル
1月	シンガポール	2名	日本食フェア
延べ		20名	

引き続き2月に台湾調査で9名、3月に香港で行う「日本のたまご」を使った料理教室に2名の派遣を予定しています。

③ 平成27年度補正予算について

平成27年度の畜産物輸出に関しては、26年度補正予算で畜産物輸出特別支援事業として300百万円が予算化されました。これを事業として協議会が受けた結果、各分科会も約30百万円程度を予算化して上記②の活動を行ってきました。今回は更に27年度の補正予算として、畜産物輸出特別支援事業に965百万円が予算化されました。これは実質的に28年度の活動に資することになります。分科会としては香港、シンガポールの既存市場でのシェアアップを目指すとともに、昨年から解禁された台湾への鶏卵輸出の円滑化に注力していきます。既存市場でありながら、輸出数量が伸び悩んでいるシンガポールについては、しっかりしたマーケット調査を行い、コンテナ船運搬ベースでの取引ができるための支援を行っていきます。台湾については未知の国ではありますが、日本よりの距離感が距離的にも、文化的にも近いことから、十分チャンスありと考えております。

27年度は分科会の実質的な初年度として手探りで事業を行ってきました。28年度には27年度の実験を生かし、以下の活動を行いたいと、計画しています。

長期的なプロモーション活動と人的交流の促進

(1) 現地消費者等への情報発信 香港、台湾でのブロガー向け広報を行い消費者向けに情報発信を行う。

(2) 人的交流活動

ア 日本国内への招へい 外食業界誌記者、流通業者、外食店料理人を日本に招へいし、鶏卵産地、直売店、卵料理等を見学/経験してもらい、「日本のたまご」の良さを理解してもらう。

イ 専門家の派遣 香港/台湾でオムライス選手権を開催し、その場に日本人シェフを派遣して、「日本のたまご」のPRを行う。

多言語化による情報発信

ロゴマークの登録・維持管理

ロゴマーク商標登録を香港/シンガポール/台湾で行う

情報の多言語発信

中国語でのホームページの拡充を行い、香港/台湾の消費者向けアピールを行う

点から面への取組の拡大

(1) 海外プロモーション活動 (香港/シンガポール/台湾)

- ・各地での展示会への出展、試食提供を通じての「日本のたまご」の認知度向上を行う。
- ・各地での「日本のたまご」フェアの開催を行い、「日本のたまご」の良さを消費者に直接訴える。
- ・食品流通業者、外食業者等を集めての「日本のたまご」セミナー開催し、業務筋向けにも情報発信をしていく。
- ・これらのイベント用の販促資材の作成とイベント時の配布も出来るだけ多く行う。

(2) マーケット調査

全くの新市場として将来的に可能性がありそうな国々に対する基本的調査を行う。一部の会員よりはロシア（沿海州）の調査希望があるとともに、鶏卵大国である米国/中国に対しての輸出可能性が全く無い訳ではなく、これらの国々も含めていろいろと調査を行っていく。

④ 鶏卵輸出の将来

・香港市場において「日本のたまご」が着実にシェアを伸ばしていますが、単純に価格競争のみで伸びているのではない、と感じました。同地の量販店の卵売場を見ると、価格が安い順に中国産⇒米国産⇒タイ産⇒日本産⇒ケージフリー卵⇒有機卵との構成で品揃えがされています。流通業者の話によると「日本のたまご」に対する安心感としっかりした食味により、他国産に対して若干のプレミアムになって販売されている様です。当然ながら国際競争ですから、価格競争も必要ですが、それ以上に安心・安全な「日本のたまご」という大きなポイントを訴求して、このイメージを定着させることが必要です。「日本のたまご」のロゴマークはこのイメージを定着させるためのものです。

・価格競争のためには、我が国の養鶏生産においてのコストダウンも避けられません。そのためには輸出による生産量増加を行うことと、生産性の高い飼養管理/鶏卵生産が必要となります。需要としての輸出が定着すれば、業界全体のコストダウンに繋がります。現在の日本の鶏卵輸入量は殻付換算で10-15万トンと需要の5%程度を占めております。今後 TPP 発効後輸入量が増加する可能性があります、それまでの間に輸出を定着させ安定需要とするべく、業界一致しての活動が望まれます。



(速報) 香港向け鶏卵輸出

数量

2014 年 1,517 トン

2015 年 2,303 トン

前年対比 +52%

金額

2014 年 384 百万円

2015 年 608 百万円

前年対比 +59%

鶏卵輸出準備分科会会員による香港での流通業者との面談



香港フードフェスティバル

日本畜産物輸出促進協議会ブースにて、鶏卵分科会によるセミナー スライドで「日本のたまご」について紹介

【相場動向】過去 10 年間の 11 月相場

	平均値	高値	安値
平成18年	226	227	222
平成19年	186	190	180
平成20年	207	210	205
平成21年	209	210	205
平成22年	240	240	235
平成23年	195	195	195
平成24年	230	230	230
平成25年	280	280	280
平成26年	248	250	245
平成27年	255	255	255
平均値	228	229	225

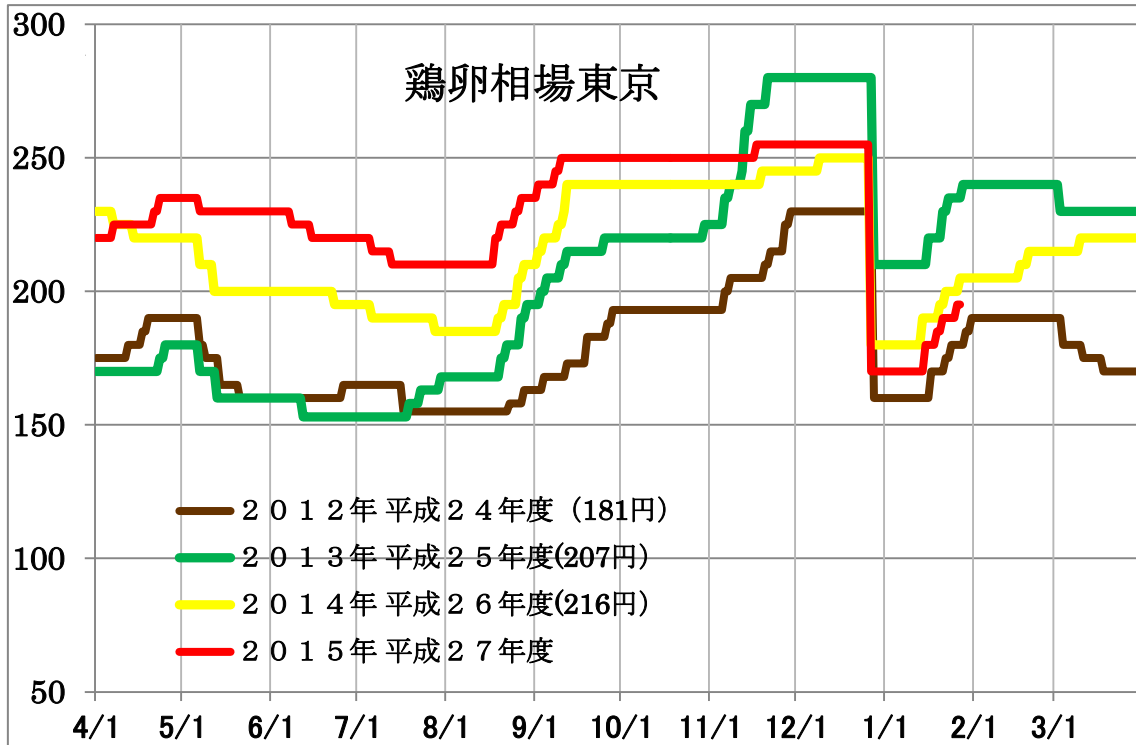
平成 27 年 12 月の鶏卵相場（東京全農 M サイズ）は 255 円となりました。これは昨年の 248 円よりは 7 円高くなり、先月の平均値 252 円より 3 円高くなりました。11 月中旬から全く動かない相場展開となりました。

【止市、初市】

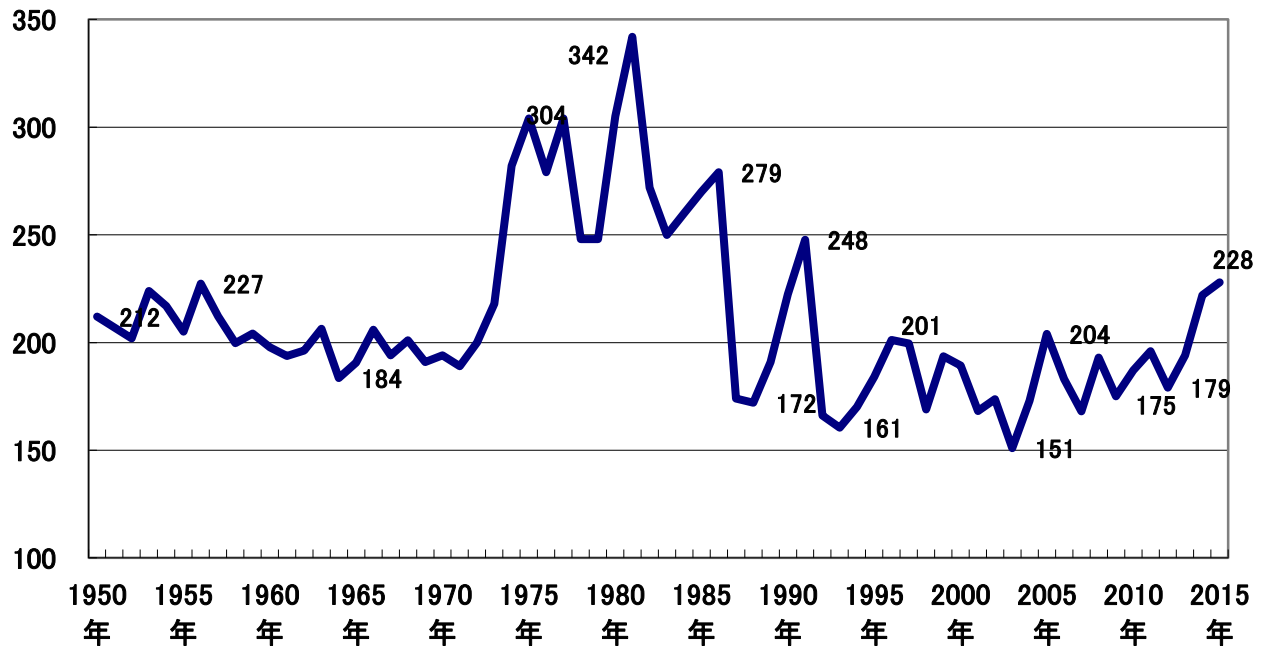
年	止め市価格	初市価格	差額
平成15年	155	85	70
平成16年	270	180	90
平成17年	200	125	75
平成18年	227	145	82
平成19年	190	115	75
平成20年	210	125	85
平成21年	210	125	85
平成22年	240	170	70
平成23年	195	120	75
平成24年	230	160	70
平成25年	280	210	70
平成26年	250	180	70
平成27年	255	170	85

平成 27 年止め市価格 255 円に対して、28 年初市は 170 円となり、85 円下げとなりました。それまでの 3 年間では 70 円の下げが続いたのですが、今回の下げは意外な下げとなりました。

【鶏卵相場推移 2012年～2015年 会計年度 東京全農 Mサイズ 円/Kg】

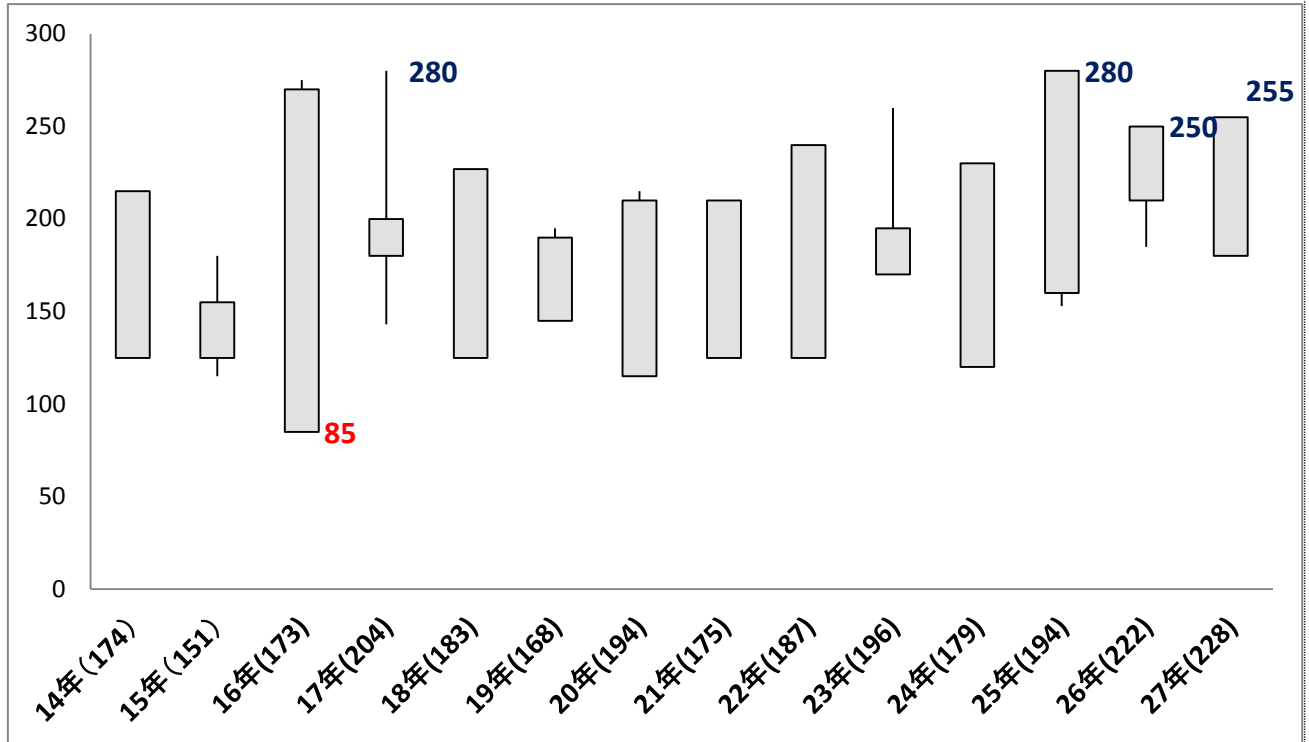


【東京全農 Mサイズ 昭和 25 年～平成 27 年 円/Kg】



【東京全農 M 移動幅 平成 14 年～平成 27 年 円/Kg】

年間の初市值、高値、安値、止市值をグラフ化しました。 この 14 年間での上値は 280 円で抑えられている様です。



【鶏卵関係主要計数】 11 月までの 1 年間の主要計数推移

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場		
	数量 (千羽)	前年比	数量 (千ト)	前年比	数量 (グラム)	前年比	東京全農M	本年	前年
平成26年									
1 2月	8,803	108.6%	533	105.5%	880	102.8%	222	280	
27年1月	8,506	109.5%	462	99.9%	765	96.4%	192	224	
2月	8,273	102.6%	449	101.4%	819	101.9%	209	240	
3月	9,263	107.3%	480	97.3%	851	103.6%	219	230	
4月	8,411	95.9%	479	103.5%	838	107.0%	227	223	
5月	8,989	101.6%	451	94.9%	856	100.0%	230	204	
6月	9,084	102.8%	454	101.6%	803	94.5%	223	199	
7月	8,831	99.6%	461	102.3%	818	101.1%	213	190	
8月	7,502	103.0%	427	100.2%	805	100.5%	219	192	
9月	8,444	95.6%	455	101.0%	802	97.2%	247	231	
10月	8,862	104.3%	476	97.6%	851	103.9%	250	240	
11月	8,518	104.7%	461	101.6%	842	99.8%	252	242	
1年間小計	103,486	101.9%	5,588	100.5%	9,930	100.7%	225	225	

雛餌付羽数は 2 か月連続、前年同月対比増となっており、11 月までの 1 年間でも 2%近い増加となっています。11 月の配合飼料出荷量は若干の増加、一人当たり家計消費量はほぼ前年同月比並みとなっており、どちらも 11 月までの 1 年間では前年同期を上回っています。比較的需要旺盛と見ていいのでしょうか。

【協会活動報告】 (下線色付き部分はホームページに連結)

①各種事業についての報告

(1) 鶏卵生産者経営安定対策事業

1) 価格差補填事業の事業参加者との契約数量 (月当たりトソ)

平成 25 年度	164,822
平成 26 年度	160,792
平成 27 年度	161,936

・12 月の標準取引価格 247.67 円/Kg (補填なし)

(2) 国産鶏卵に関する普及啓発事業委員会

・1 月 19 日に本年度第 6 回目会議が開催されました。席上、平成 27 年度の事業についての中間総括がなされ、また平成 28 年度の事業について検討がなされました。

(3) 畜産物輸出特別支援事業

・日本畜産物輸出促進協議会の一員として、12 月 24-28 に香港フードフェスティバルに 6 社 7 名が参加して、「日本のたまご」ロゴマーク宣伝や試食等の活動を行いました。今回の試食では空輸した温泉卵をスープ仕立てにして供しましたが、好評でした。またメインセミナーでは在香港のスターシェフである杉内馨氏による親子丼とオムライス調理ショーが行われ、多くの消費者の関心を集めました。

・日本畜産物輸出促進協議会が参加する「日本食フェア」(1 月 9-10 日、シンガポール伊勢丹) に分科会より 2 名の会員が参加して、「日本のたまご」の紹介を致しました。また現地で「日本のたまご」を温泉卵に加工してスープ仕立てで試食を行い、好評でした。

・平成 27 年度畜産物輸出特別支援事業として、分科会では 2 月下旬に先日輸出解禁となった台湾においての現地調査を行うこととしました。 また 3 月初旬に香港において、「日本のたまご」セミナーを行います。



香港フードフェスティバル

鶏卵分科会による試食。ミニハンバーグ温泉卵かけ

②会議等

(1) 正副会長会議、臨時総会

1 月 19 日に第 6 回の正副会長会議を開催しました。 同日に臨時総会が開催されて、

- ・平成 28 年度会費の賦課及び徴収方法案に関する件
 - ・一般社団法人日本養鶏協会定款の一部変更に関する件
- の 2 議案が圧倒的な賛成によって、可決されました。

③今後の予定

2 月 10 日 (水) 正副会長会議、理事会

2 月 24 日 (水) 第 3 回 鳥インフルエンザ問題対策委員会

3 月 30 日 (水) 正副会長会議、理事会

【日鶏協ニュース】 発行者：一般社団法人 [日本養鶏協会](#)

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目 6 番 1 6 号馬事畜産会館内 (5 階)

TEL : (03) 3297-5515 FAX : (03) 3297-5519

発行日 2016 年 1 月 28 日

編集・発行責任者：島田博 (fuwatama@jpa.or.jp)